

令和4年(2022年)9月30日

「おおいた地域高等教育活性化中長期計画2018」の達成状況及び検証・改善について

中長期計画の各種指標について、各年度の実績値は以下の通りである。本年度(2022年度)が中長期計画の最終年度になるが、各種指標の達成状況については、コロナ禍による影響等により一部で未達が見込まれるものが含まれるが、概ね順調に推移している。以上の状況を踏まえ、本年度の事業計画では右欄のような取組改善を行っている。

アウトカム指標 ・活動指標	基準値	実績値				目標値	検証・改善
		2018	2019	2020	2021	2022	
(A) 事業参加機 関の満足度	51.8% (2018)	51.8%	94.6%	94.5%	94.6%	80%	計画2年目より目標値80%を大幅に超える約95%で推移している。高水準を継続できるよう事業を着実に行う。
① 大分県と構成 大学等との連携 事業数	122件 (2016)	167件	169件	172件	184件	140件 180件	本指標は大分県長期総合計画「安心・活力・発展プラン2015」に記載のも のもでもあり重要指標である。プラットフォームによる連携強化の結果、連携 事業数が目標値を上回り拡大を続けている。そのため、2020年に改訂した 県総合計画にて目標値を上方修正するとともに、本計画も上方修正した。
② 高大接続検討 会議の開催実績	1回/年 (2017)	2回	2回	2回	3回	3回/年	旧高等教育活性化部会、県内進学促進WG、進学率向上WG等において、大学 群と県教委と継続的に課題の共有等を行っている。引き続き、各テーマに沿 った議論を行い実質化に努める。
③ 中高生向け教 育支援プログラ ムの開催実績	6回/年 (2017)	5回	7回	2回	5回	15回/年	大分大学中心に実施してきた女子中高生の理系選択支援プログラムを他大 学に拡充、連携することを目指している。コロナ禍で高校現場での実施に制 限があるが、2021年度に3大学合同で初開催し、拡充に向けた基盤が整っ た。2022年度はこれに加え、Web上でのプログラムを開設し、拡充する。
(B) 県内高校生 の県内大学等へ の関心度	ベンチマー ク調査 (2019)	—	64.4%	47.7%	57.3%	+10ポ イント	2019年度より県内全大学のオープンキャンパスを一覧で確認できる「オー ペンキャンパスガイド」を毎年発行している。ガイドを参考にオープンキャン パスに参加した生徒の割合を大学毎に算出し平均した指標であるが、生 徒実数は55.0%(2019)→56.3%(2020)→60.6%(2021)と着実に増加して いる。連動するWebサイト「キャンパスおおいた」の内容を拡充、継続的に 更新を重ねることで関心度のさらなる向上につなげる。
④ 合同進学説明・ 意見交換会等の 開催実績	0回/年 (2018)	0回	3回	2回	2回	4回/年	県立・私立の各学校群に対して上記内容及び進学に関する意見交換を得て いる。高校生に向けては毎年度末に開催している大学生の地域活動報告会 に参加できる機会を設けている。コロナ禍で不開催やオンライン開催が続 いたが、徐々に再開していることから今後は着実な実施を図る。

アウトカム指標 ・活動指標	基準値	実績値				目標値	検証・改善
		2018	2019	2020	2021	2022	
⑤合同FD/SD研修会の開催実績	4回/年 (2017)	3回	3回	1回	1回	5回/年	内容の充実を図ることからプラットフォーム内にワーキングを設置し、質の高い研修会を企画、開催している。コロナ禍で初任者研修など対面開催が望ましいものが開催できていないが、オンライン開催やオンデマンド配信などの工夫を凝らし、受講機会の拡大を図っている。
⑥おおいた共創士の認定者数	－ (2017)	5人	8人	16人	17人	150人/年	2018年度は1校、2019年度以降は2校から輩出している。かなり高い目標値を設定したこと、コロナ禍で地域PBL科目の拡大が難しく、目標の達成は困難な状況である。しかしながら、2020年度には上位資格である「おおいた共創士『匠』」の認定者の輩出、就職等優遇制度の登録企業等は55機関に拡大している。今後は単位互換科目を活用するなど認定機会を確保するとともに、質の向上、多様な受け入れ機関の確保などに取り組んでいく。
⑦単位互換科目受講者数	72人/年 (2017)	30人	29人	16人	46人	100人/年	受講者数は伸び悩んでいるが、中核である協働開発・協働実施科目については、大学間連携、教員間連携が進み、授業の質的向上、充実につながっている。2022年度前期は対面授業の再開、ハイフレックス授業の実施など多様な授業が実施されたことから受講登録者数が48名となり、大幅に増加している。今後はオンライン科目の充実などにより受講生の増加につなげる。
⑧短大特性を生かす教育プログラムの開催実績	1回/年 (2017)	1回	1回	1回	1回	2回/年	溝部学園短期大学を中心に「温泉コンシェルジュ養成講座」を行っている。「職業実践力育成プログラム」(BP)として多様なニーズに応える3コースを開設している。今後は別プログラムの開発に向けた協議を行う。
⑨インターンシップ参加者数	72人/年 (2017)	112人	146人	214人	234人	200人/年	産学官協働による「インターンシップフェア」「シゴト発見フェスタ」等を通じてマッチングの機会を創出し、着実に実績が伸びている。2022年度はこれらのイベントを対面開催に戻し、さらなる参加者増につなげる。
⑩リカレント教育の受講者数	－ (2017)	0人 (予定無)	397人	62人	47人	50人	2019年度は地域活性化事業(リカレント教育事業)として県の補助を得たことから11件の事業が実施できた。2020年度以降は独自事業、コロナ禍により低調となったが、2021年度は初の試みとして、対面とオンラインを併用(他会場へ中継)開催し、対象地域の拡大を図った。今後も充実を図る。
⑪新たに開始した産学官連携研究の累積実施件数	－ (2017)	0件 (予定無)	3件	3件	6件	5件	新たな連携研究を2019年度より稼働した。2020年度は県において、大学と連携して地域課題解決を目指す事業として32件が挙げられ、マッチングを行った。結果、2021年度から新たに3件が取り組みを開始した。2021年度はこの枠組みを市町村に拡大し、2022年度より8市町11件が事業を行っている。今後もこの枠組みを定着させ、拡充を図る。

以上